

CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡産の紅茶などもお楽しみいただけます。



オリジナルグッズ

- ・クリアファイル
- ・マスキングテープ
- ・缶バッジ
- ・色鉛筆
- ・茶アメ

※販売状況により在庫がない可能性があります

美術館からのお願い



展示作品にはお手を触れないようお願いします



作品保護のため、展示室内では鉛筆以外の筆記用具の使用はご遠慮ください



カフェ以外での飲食はご遠慮ください



展示室内での撮影はご遠慮ください



展示室内では携帯電話はマナーモードにし、使用はご遠慮ください



ペットをお連れの方、植物をお持ちの方は入館できません

サービス



コインロッカー／傘立て
※ご利用の際、100円硬貨が必要です。使用後に返却されます。



車いす・ベビーカー貸出
※インフォメーションにて無料で貸し出しています。



- 《電車》 JR 静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス
(静岡エアポートライナー)で約1時間

開 館 時 間 10:00～19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)

休 館 日 月 曜 日 (祝日の場合は開館、翌日休館)
年 末 年 始

観 覧 料 展覧会により異なる。中学生以下無料。
交流ゾーン、ショップ利用は無料。

◎展示替え期間中も交流ゾーンは開館しています。

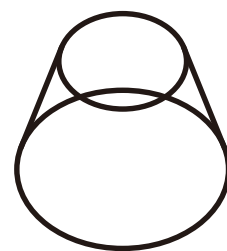
夜7時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

スケジュール 2026-2027



静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

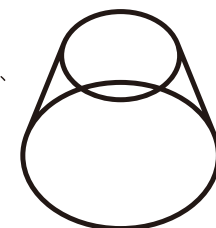


静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年開館しました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念としています。展覧会事業と交流事業を柱に、“街の中の広場”のような美術館を目指しています。



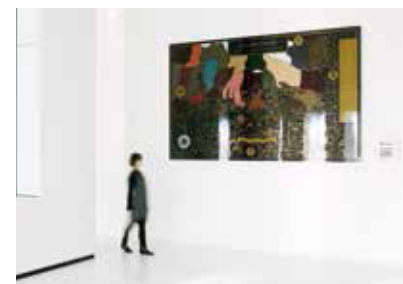
美術館ロゴマーク

ロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表わされています。また、視点と奥行きの変化による“見ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。



東海道五十三次ひとめ図

2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。



水木しげるの妖怪 百鬼夜行展

～お化けたちはこうして生まれた～

2026年4月4日(土)－6月14日(日)

日本を代表する漫画家・水木しげる(1922-2015)。幼少期から妖怪に興味を持ち、妖怪研究に没頭した水木は、漫画を通じて現代日本に妖怪文化を根付かせ、妖怪ブームを牽引しました。本展是水木しげるの妖怪画の創作の裏側や具体的手法に注目した展覧会です。妖怪関連資料や書籍、漫画作品の原稿を公開するほか、妖怪画の原画も多数展示し、先人たちが築いてきた妖怪文化を継承しつつ、さらに豊かなものに発展させた水木しげるの仕事に迫ります。細密かつコミカルな筆致で描かれた独特の世界観を存分にお楽しみください。



《がしゃどくろ》
©水木プロダクション

スウェーデンのうつわ

グスタフスペリのある暮らし

2026年6月27日(土)－9月6日(日)

1825年、スウェーデン南東部に設立されたグスタフスペリは、現在も同地で生産を続ける北欧を代表する製陶所です。デザイナーたちの自由な創造と産業が結びついた豊かな関係から生み出されたテーブルウェアは、人々の日常に寄り添い、暮らしを彩ってきました。本展は製陶所を代表する4人のデザイナー、ヴィルヘルム・コーゲ、スティグ・リンドベリ、リサ・ラーソン、カーリン・ビョルクヴィストに焦点をあて、スウェーデン国立美術館が所蔵する約300点の作品で、今なお愛されるグスタフスペリの歴史と魅力をひもときます。

(上) リサ・ラーソン《「アフリカ」シリーズ ジャイアント・ライオン》
1964年デザイン/1964-88年
(下) スティグ・リンドベリ《「ベショー」シリーズ》1960-74年
すべて スウェーデン国立美術館
© Nationalmuseum / Gustavsbergs Porslän AB
Photo: Viktor Fordell / Nationalmuseum



わたしたちのルノワール

2026年9月22日(火・祝)－11月15日(日)

フランス印象派を代表する画家ピエール＝オーギュスト・ルノワール(1841-1919)。明るく幸福な雰囲気 に満ちた作品で知られ、日本においても非常に人気のある画家の一人です。わが国でルノワールが愛されてきた理由は、その作品を「日本の美術館で実際に観ることができるから」とも言えるでしょう。本展では、日本国内の美術館が所蔵するルノワールの作品を、梅原龍三郎や山下新太郎のように彼を敬愛したことで知られる日本人洋画家の作品とともに紹介します。遠い異国の画家であったルノワールが日本に受容され、わたしたち日本人にとって身近な画家となっていくまでの変遷を辿ります。



ピエール＝オーギュスト・ルノワール《胸に花を飾る少女》 1900年頃
熊本県立美術館

秘密のメッセージ

エドワード・ゴーリー

2026年11月28日(土)－2027年1月11日(月・祝)

不思議な世界観と、モノトーンの緻密な線描で、世界中に熱狂的なファンをもつ絵本作家エドワード・ゴーリー(1925-2000)。日本でも『うろんな客』『不幸な子供』などの絵本が次々と紹介されています。ゴーリーは自身がテキストとイラストの両方を手がけた主著(Primary Books)以外にも、挿絵や表紙、舞台などのデザイン、演劇やパレエのポスターなどを手掛け、多彩な才能を発揮しました。本展では主著や未発行の絵本の原画に加え、ポスターや出版物などを含めた200点を超える作品により、そこに込められた秘密のメッセージを読みときます。

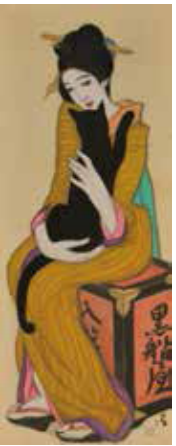


エドワード・ゴーリー《『うろんな客』原画》 1954年
©2026 The Edward Gorey Charitable Trust

竹久夢二 時代を創る表現者

2027年1月23日(土)－3月28日(日)

竹久夢二(1884-1934)は絵画、装幀、商業デザイン、文筆など多方面に才能を発揮し、明治の終わりから昭和のはじめにかけて活躍しました。江戸の面影や異国への憧れ、都市のモダンな文化を描いた夢二の作品は、展覧会や印刷メディアを通じて広く大衆に流布し、「夢二式」と呼ばれる女性像や様々なデザインは今日なお高い人気を誇ります。本展では、約40年ぶりに館外公開される代表作《黒船屋》をはじめ、日本画や油彩画、書籍や小物のデザイン、スクラップブックなど、全国の夢二コレクションの作品を一堂に集め、夢二を時代に応答した表現者として捉え直します。



竹久夢二《黒船屋》 1919年
竹久夢二伊香保記念館

交流事業

ミュージアムショップ&カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。詳しくはお問い合わせください。



資料展示「萌木会と静岡の染色家」



(上) ワークショップ室 「オープンアトリエ」のようす
(下) 多目的室 講演会のようす